

令和8年8月24日
令和8年度第2回 福岡県災害復旧・復興推進本部会議

令和8年梅雨の概況、 今後の気象の見通しについて

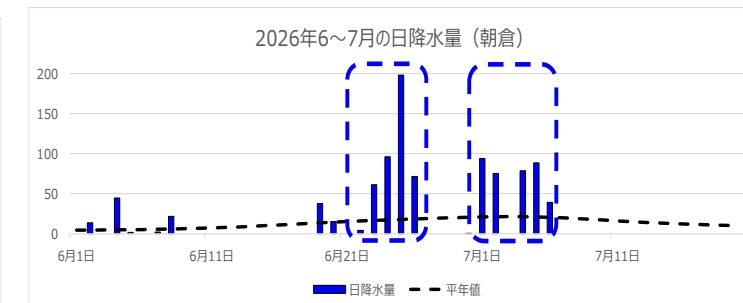
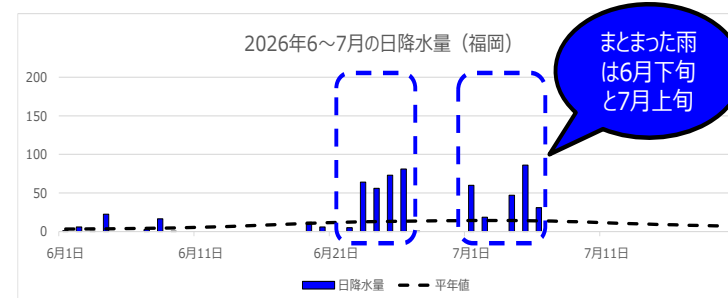
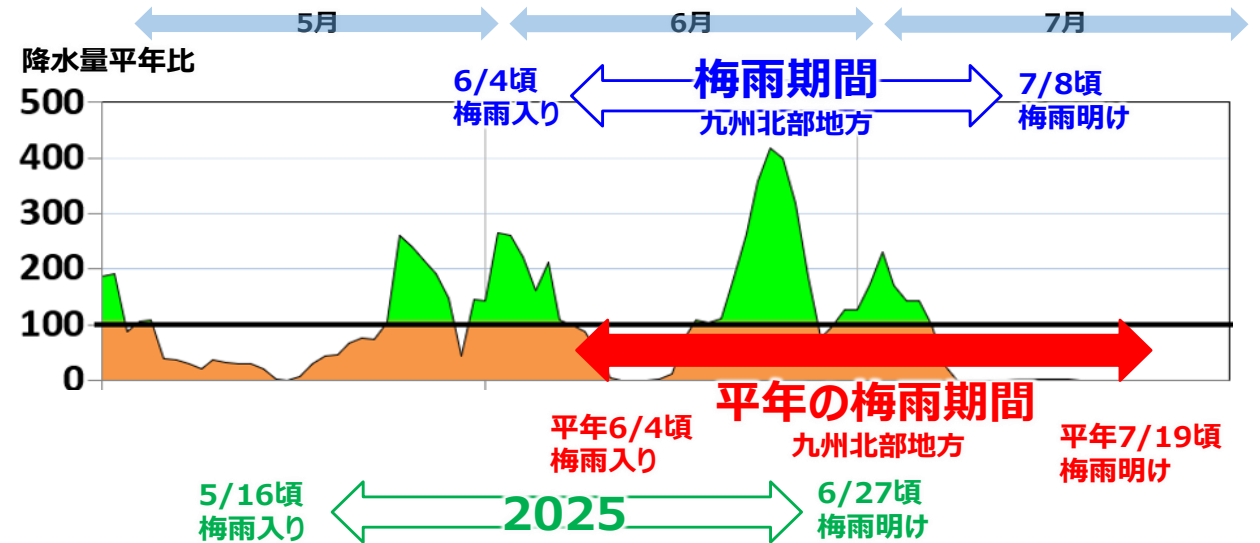
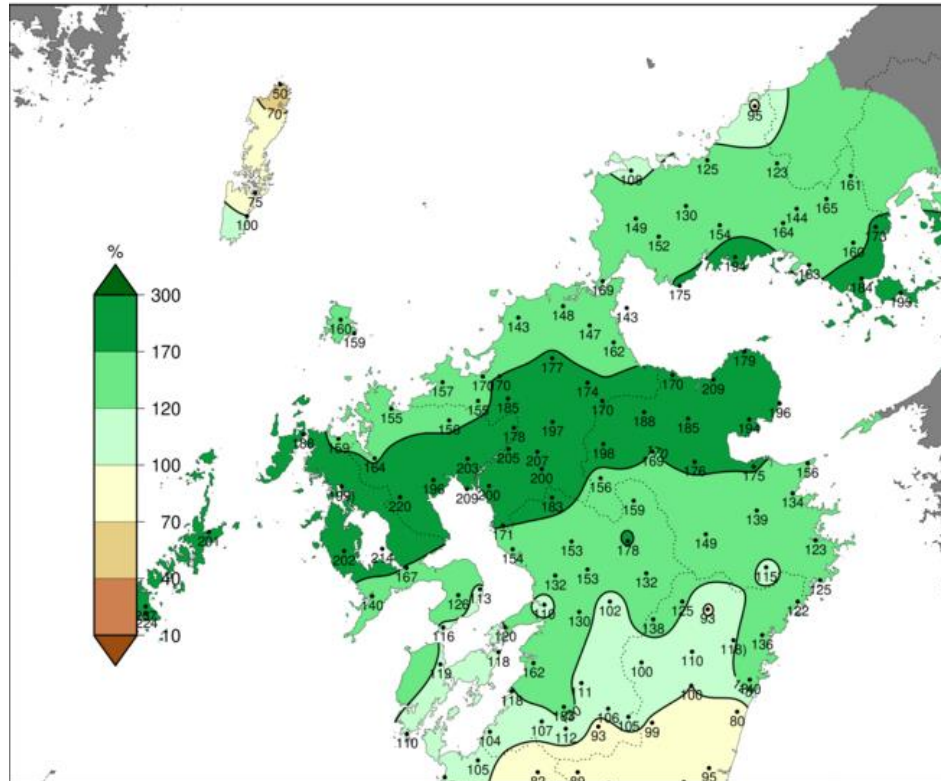
福岡管区気象台気象防災部
予報課長

令和8年梅雨の概況

今年の梅雨の特徴(速報値)

- ✓ 2026年は、九州北部地方（山口県を含む）では**6月4日頃に梅雨入り**し、**7月8日頃に梅雨明け**したとみられます（速報値）。
- ✓ 梅雨入り後、6月中旬は移動性高気圧に覆われてやすく、曇りや雨の日が少なくなりました。6月下旬のはじめから中頃と7月上旬の前半は、梅雨前線の影響を受けやすく、また台風第7号や第8号からの暖かく湿った空気が流れ込んだ影響も加わって、大雨となった所がありました。
- ✓ **7月2日には佐賀県、長崎県、福岡県、大分県、熊本県で、7月5日には熊本県で線状降水帯**が発生しました。
- ✓ これらの影響で、この期間の降水量は**平年を上回った所**が多くなりました。

6/4～7/7の降水量平年比



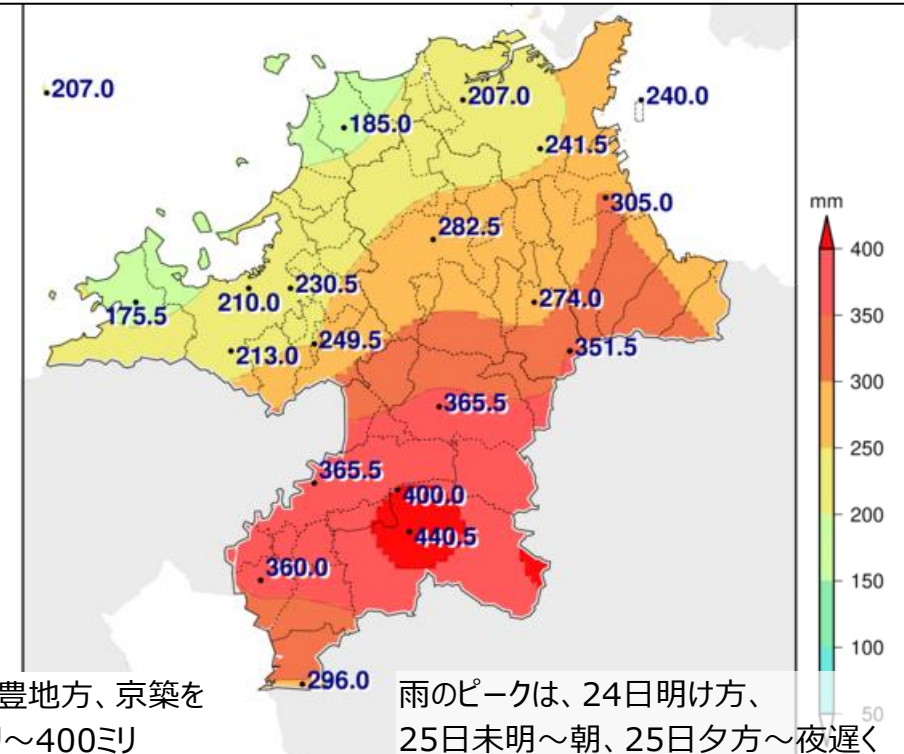
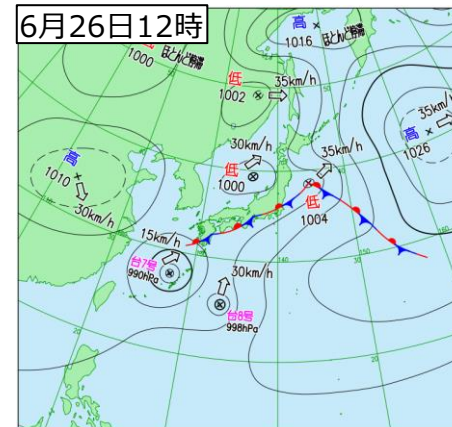
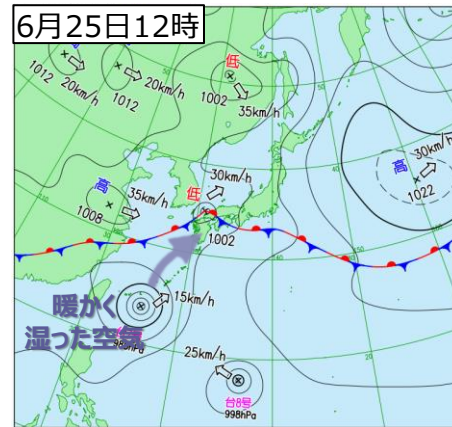
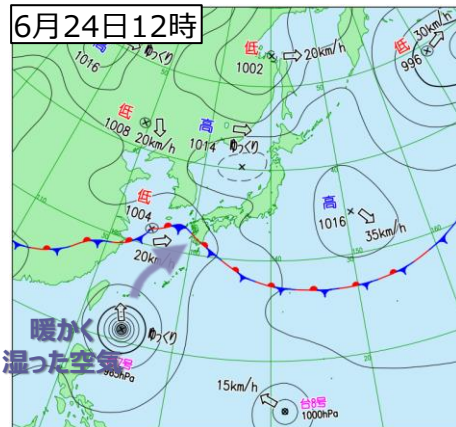
令和8年6月24日から26日にかけての大雨

【概要】

- 前線や低気圧に向かって高気圧周辺や台風第7号からの暖かく湿った空気が流れ込み、筑後地方や筑豊地方、京築を中心に大雨となった。25日から26日にかけて、筑後地方、筑豊地方、京築では**Lv4土砂**、久留米市と朝倉市では**Lv4大雨**を発表。また、京築では**Lv4氾濫**も発表。
- 筑後地方では、25日明け方から朝、夕方から夜遅くにかけて非常に激しい雨（局地的には猛烈な雨）を解析。
- 雨の予想（筑後地方）
24日06時から25日06時 24時間150ミリ 1時間50ミリ
25日06時から26日06時 24時間150ミリ 1時間50ミリ ※24日朝の予想では、24時間100ミリ 1時間30ミリ
26日06時から27日06時 24時間 80ミリ 1時間40ミリ

24日から26日にかけて前線上の低気圧が東シナ海から対馬海峡へ進み、前線は九州に停滞

6月24日から26日にかけての総降水量分布図



福岡県では運用開始後**初めて**の**線状降水帯直前予測**を発表
線状降水帯発生には至らなかったものの、3時間降水量の最大値は約100ミリを解析

福岡県気象防災速報（線状降水帯直前予測） 第1号
令和8年6月25日19時09分 気象庁発表
（見出し）

福岡県**筑豊地方**、**筑後地方**では、今後3時間以内に線状降水帯が発生し、非常に激しい雨が同じ場所で降り続く可能性が高まっています。命に危険が及ぶ災害発生の危険度が急激に高まるおそれがあります。

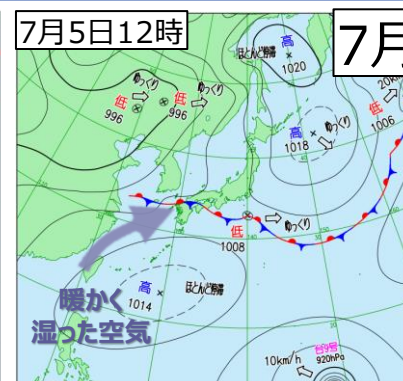
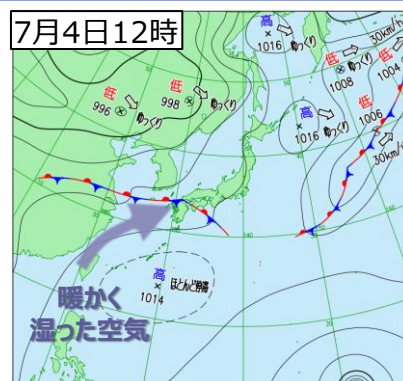
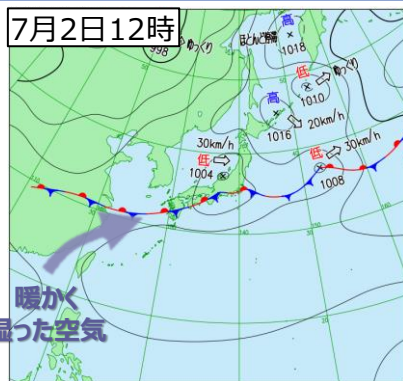
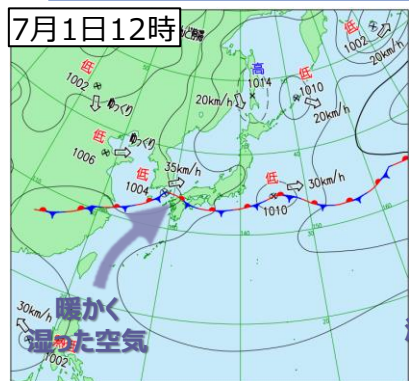
筑後地方、筑豊地方、京築を
中心に300ミリ～400ミリ

雨のピークは、24日明け方、
25日未明～朝、25日夕方～夜遅く

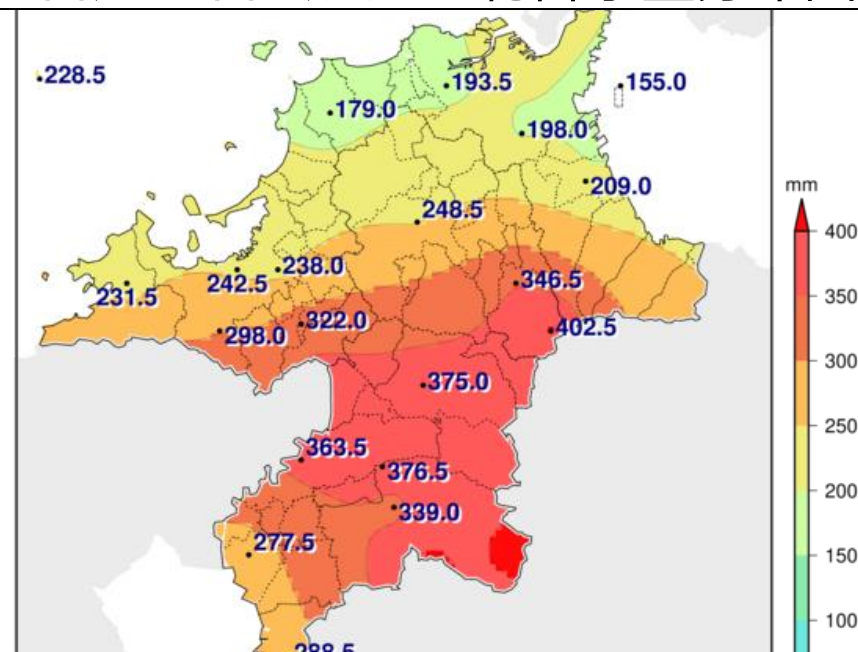
令和8年7月1日から6日にかけての大雨

【概要】

- 1日から2日にかけて、前線上の低気圧が対馬海峡を東へ進み、前線は九州北部地方をゆっくりと南下。
- 南下した前線は、4日には対馬海峡まで北上。その後、6日にかけて前線は九州北部地方に停滞。
- 前線に向かって高気圧周辺からの暖かく湿った空気が断続的に流れ込み、福岡県では広い範囲で大雨となった。1日から2日、4日から5日にかけて**Lv4土砂**、2日と5日は**Lv4大雨**を発表。
- 雨の予想（筑後地方）
 - 1日06時から2日06時 24時間150ミリ 1時間50ミリ
 - 4日06時から5日06時 24時間120ミリ 1時間50ミリ
 - 5日06時から6日06時 24時間150ミリ 1時間50ミリ ※4日朝の予想では、24時間100ミリ 1時間30ミリ



7月1日から6日にかけての総降水量分布図



線状降水帯直前予測を発表、筑後地方で02時20分に線状降水帯が発生

福岡県気象防災速報（線状降水帯直前予測） 第2号
令和8年7月2日01時49分 気象庁発表
（見出し）

福岡県**筑後地方**では、今後3時間以内に線状降水帯が発生し、非常に激しい雨が同じ場所で降り続く可能性が高まっています。命に危険が及ぶ災害発生の危険度が急激に高まるおそれがあります。

福岡県気象防災速報（線状降水帯発生） 第1号
令和8年7月2日02時28分 気象庁発表
（見出し）

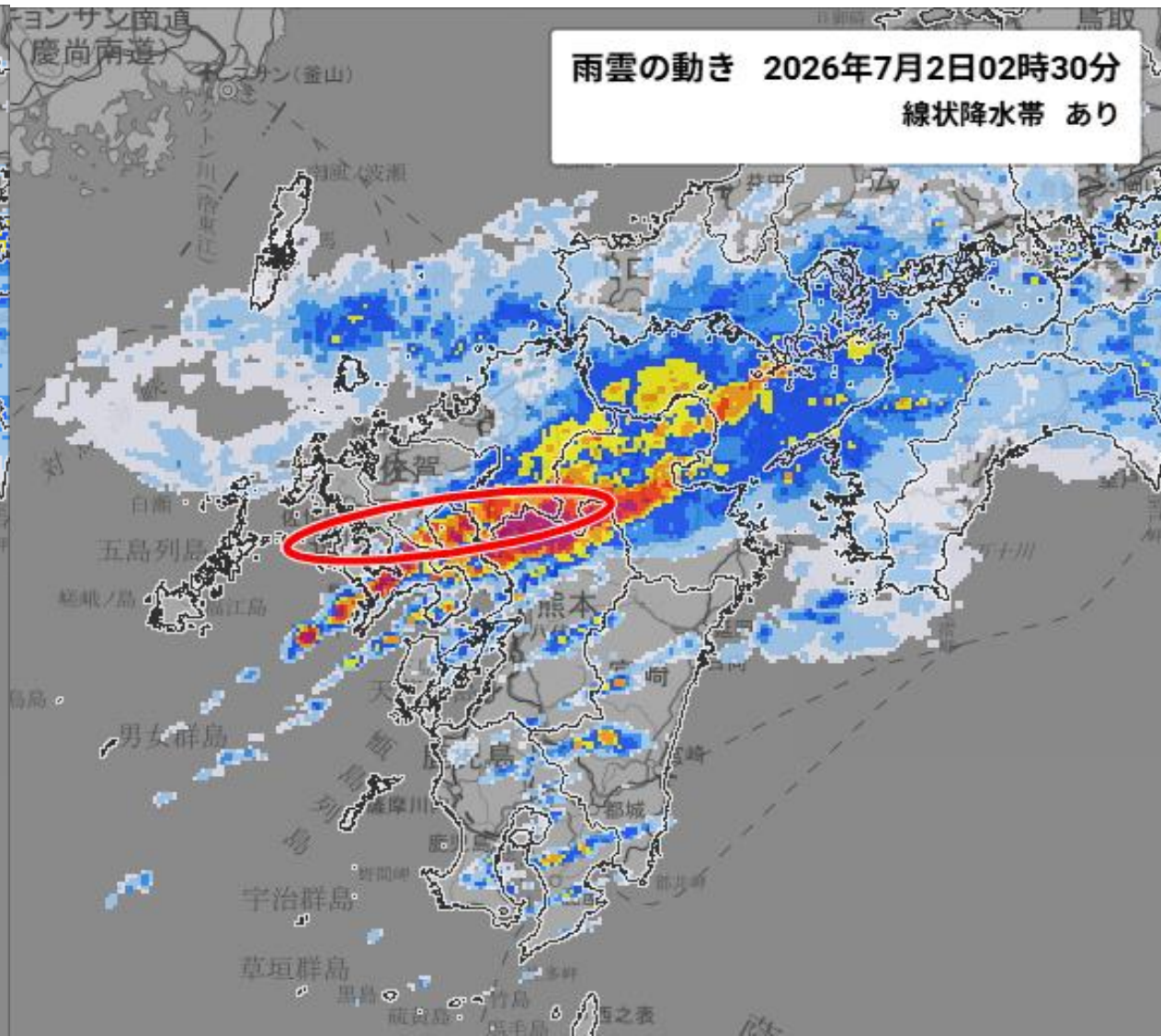
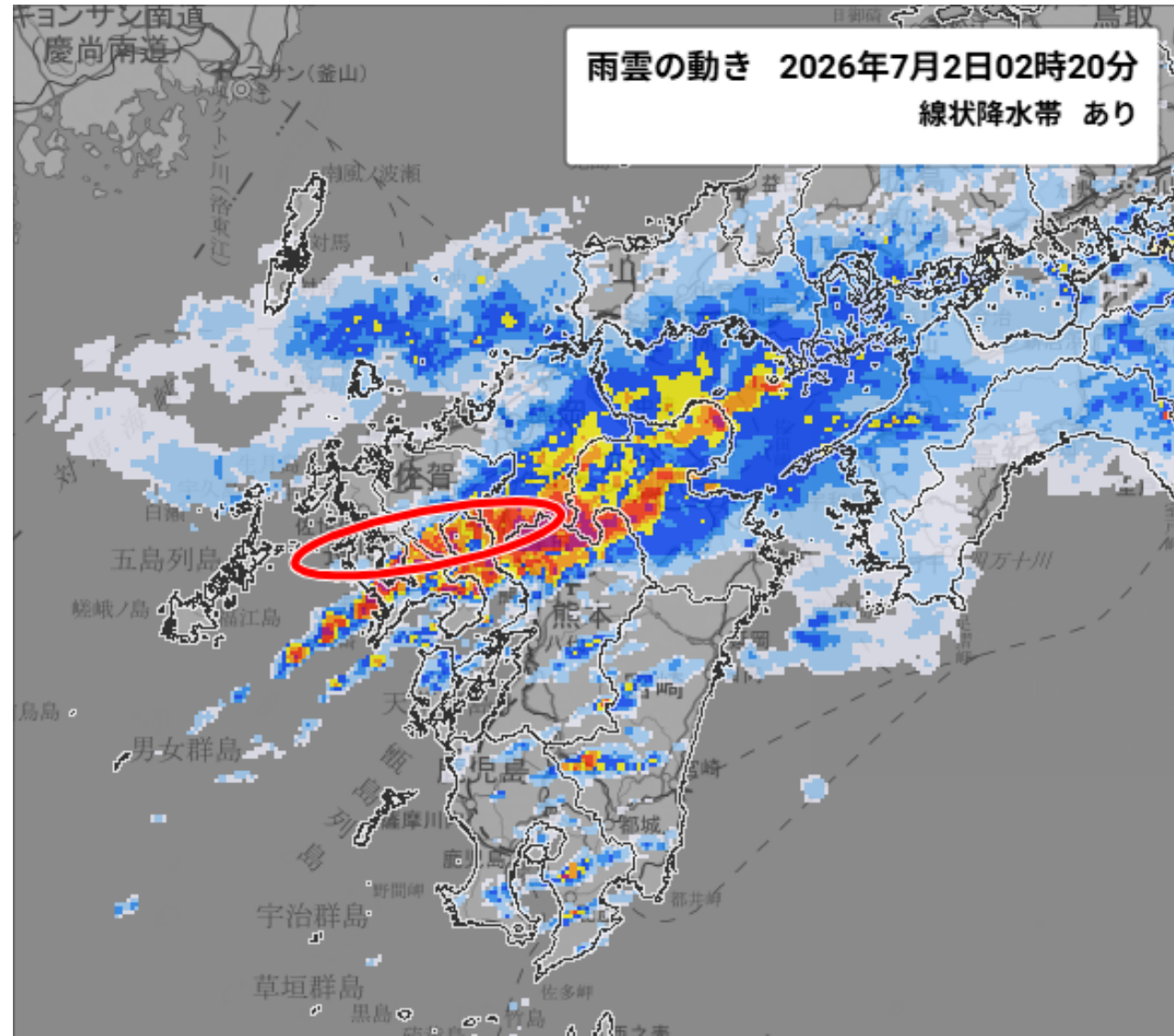
福岡県**筑後地方**では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ災害発生の危険度が急激に高まっています。

筑後地方、筑豊地方を
中心に300ミリ～400ミリ

雨のピークは、1日夕方～2日明け方、
4日明け方～昼前、5日明け方～昼前

令和8年7月2日 線状降水帯発生

線状降水帯発生 7月2日02時20分～02時30分



令和8年の梅雨のまとめ

- **九州北部地方の梅雨入りは平年並、梅雨明けは平年より早かった**
梅雨期間の前半は、曇りや雨の日が少なくなったが、後半には、梅雨前線の影響を受けやすく、また台風第7号や第8号からの影響も加わって、大雨となった所があった。
- **福岡県内の総降水量は平年を上回ったところが多くなった（6月4日～7月7日）**
福岡 582.0ミリ 平年値：342.2ミリ 平年比：170%
飯塚 686.5ミリ 平年値：387.9ミリ 平年比：177%
- **令和8年梅雨期間のL4危険警報の発表状況**
大雨：6月25日、7月2日、7月5日
土砂災害：6月25日、6月26日、7月1日、7月2日、7月4日、7月5日

今後の気象の見通し (8月～10月の3か月予報)

※9月～11月の3か月予報は、8月25日発表

8～10月の予報のポイントと留意点

予報のポイント

- 向こう3か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、**平年並**が**高い**でしょう。

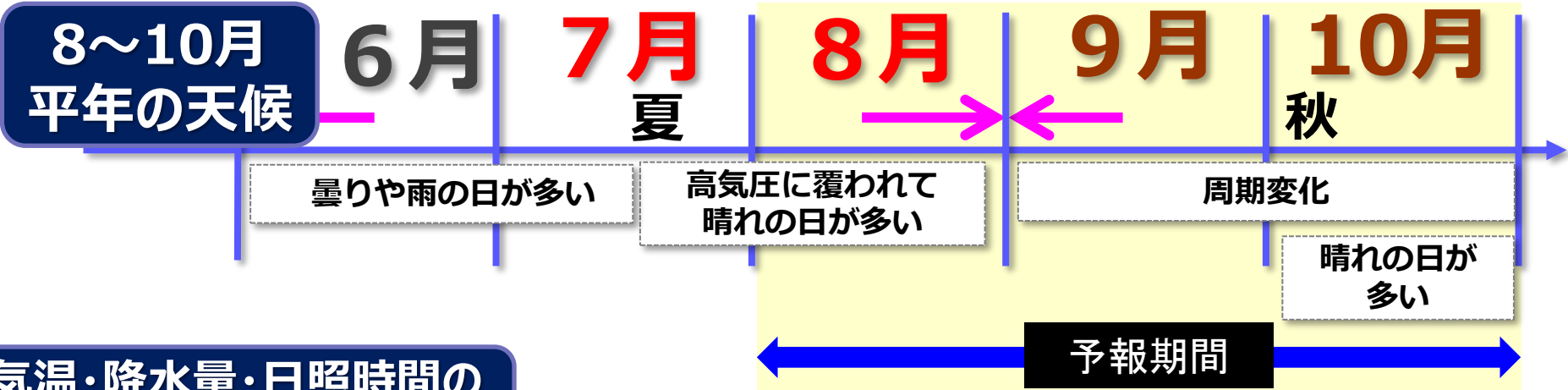
留意していただきたいこと

- 8月は**高温**の予報。
- 梅雨明け以降、気温がかなり高い状態となっており、**熱中症の危険性が高い状態が続きます**。
屋外での活動等では飲料水や日陰を十分に確保するなど**熱中症対策**を行い、**健康管理に注意**してください。また、農作物や家畜の管理等にも注意してください。

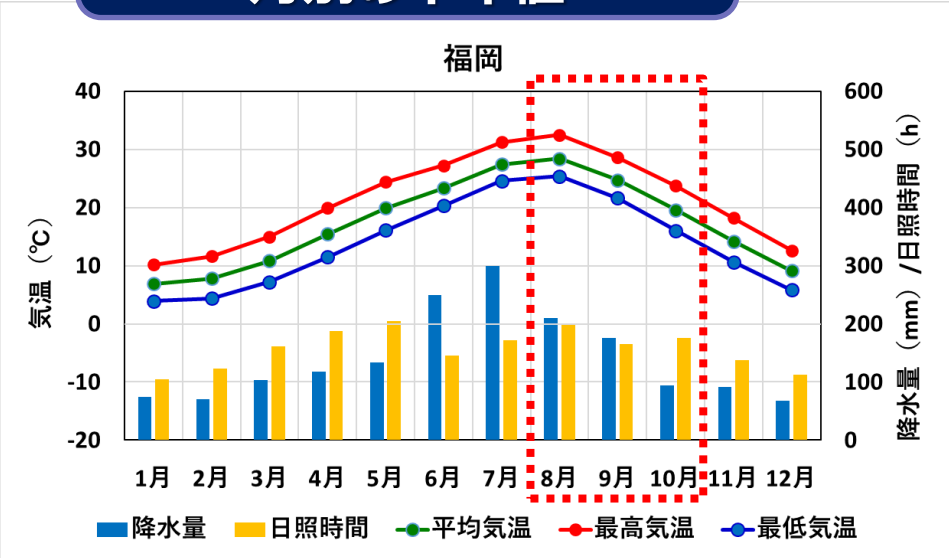


- 降水量は**ほぼ平年並**の予報。
- 台風や秋雨の時期であり、**近年は大雨の発生頻度が増加**しています。
最新の気象情報等を活用いただき、**大雨・台風への備え**をお願いします。

8～10月の九州北部地方の平年の天候経過



気温・降水量・日照時間の月別の平年値



8～10月のポイント

- ・ 気温が最も高い8月を含む
- ・ 台風の発生数が一番多い
(平年の接近数は約3個)

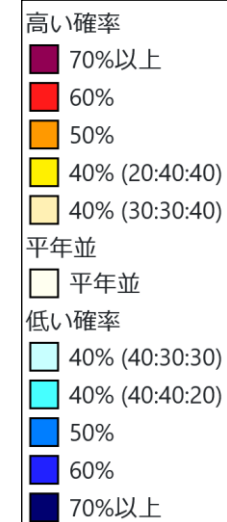
表 台風の発生及び上陸数 (平年値)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
発生数	0.3	0.3	0.3	0.6	1.0	1.7	3.7	5.7	5.0	3.4	2.2	1.0	25.1
日本上陸数					0.0	0.2	0.6	0.9	1.0	0.3			3.0
九州北部地方 接近数				0.0	0.1	0.3	0.8	1.1	1.1	0.4			3.8

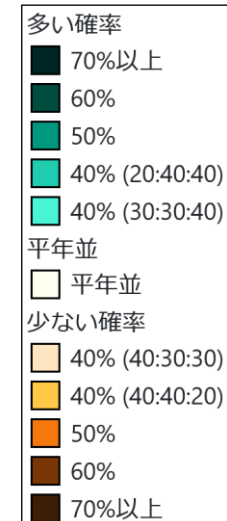
天候の見通し(8~10月)

	8 月	9 月	10 月
天候	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	天気は数日の周期で変わるでしょう。	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
気温	低 10 並 40 高 50 高い 見込み	低 30 並 40 高 30 ほぼ平年並 の見込み	低 20 並 40 高 40 平年並 か 高い 見込み
降水量	少 30 並 40 多 30 ほぼ平年並 の見込み	少 40 並 30 多 30 ほぼ平年並 の見込み	少 30 並 40 多 30 ほぼ平年並 の見込み

気温



降水量



8月の気温を低温側へ変更: フィリピン付近の対流活動が弱まり、暖かい空気に覆われやすい傾向がやや弱まったため
8~9月の降水量を少雨側へ変更: 湿った空気の影響をやや受けにくい予想となったため

九州北部地方の1か月予報(8/22～9/21)

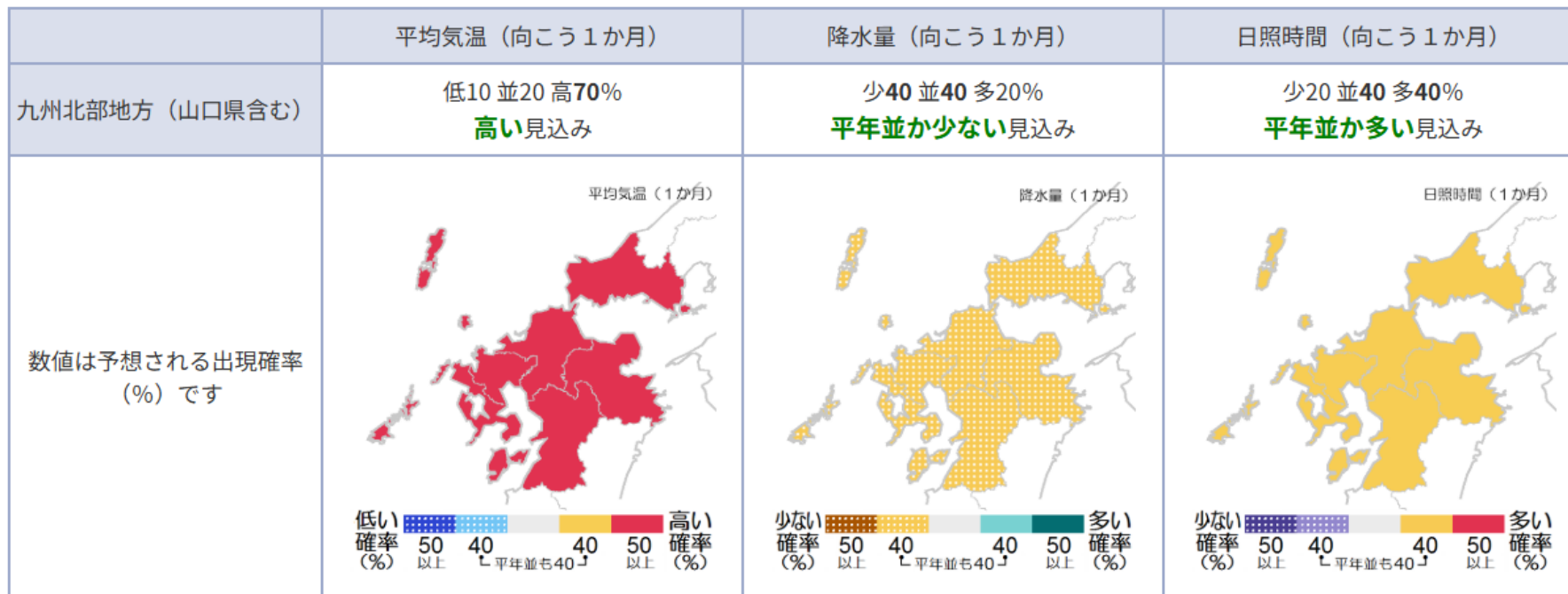
【特に注意を要する事項】

今後1か月程度は気温の高い状態が続き、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。特に、令和8年熊本地震の被災地においては、慣れない環境や作業で熱中症の危険性が高くなりますので、十分な注意が必要です。

また、今後2週間程度は降水量の少ない状態が続く見込みです。

《予報のポイント》 7月から暖かい空気に覆われ、気温の高い状態が続いています。今後1か月程度も、暖かい空気に覆われやすいため気温の高い状態が続く見込みです。7月から高気圧に覆われやすく、降水量の少ない状態が続いています。今後2週間程度も、湿った空気の影響を受けにくいいため降水量の少ない状態が続く見込みで、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いでしょう。

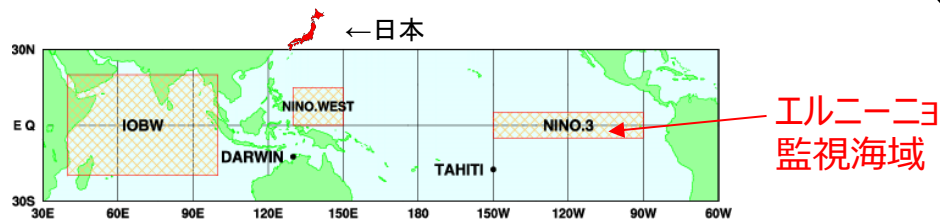
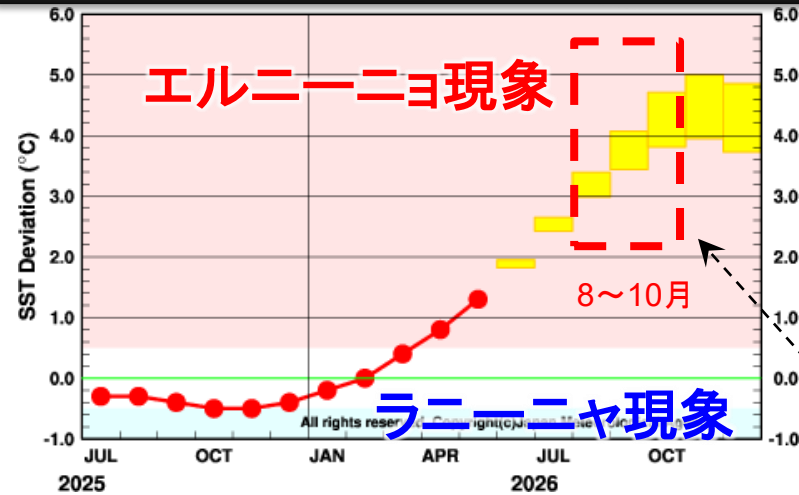
《向こう1か月の天候》 平年に比べ晴れの日が多いでしょう。



熱帯域の海面水温の予測

2026年春から**エルニーニョ現象**が発生しているとみられる。
今後、冬にかけて**エルニーニョ現象**が続く見込み(100%)。

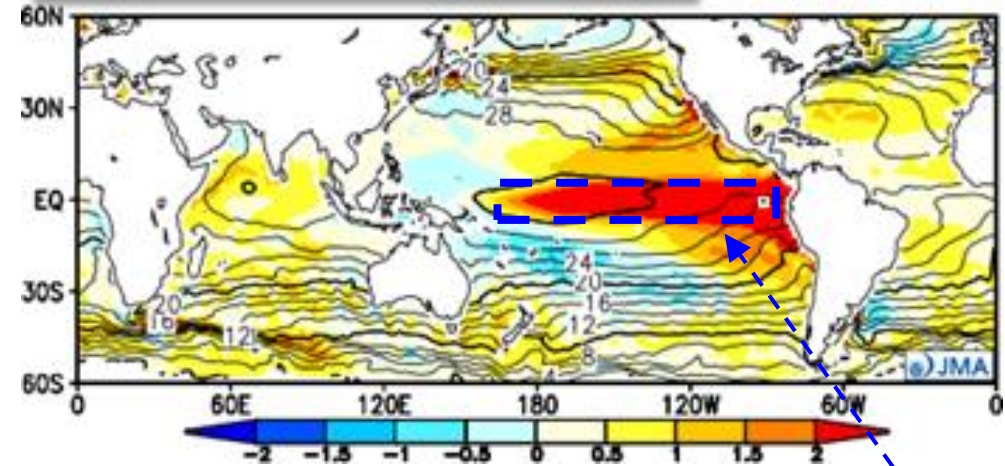
エルニーニョ監視海域の海面水温の基準値の差



エルニーニョ監視速報 URL:

https://www.data.jma.go.jp/cpd/elnino/kanshi_joho/kanshi_joho1.html

海面水温の予測図(8~10月)

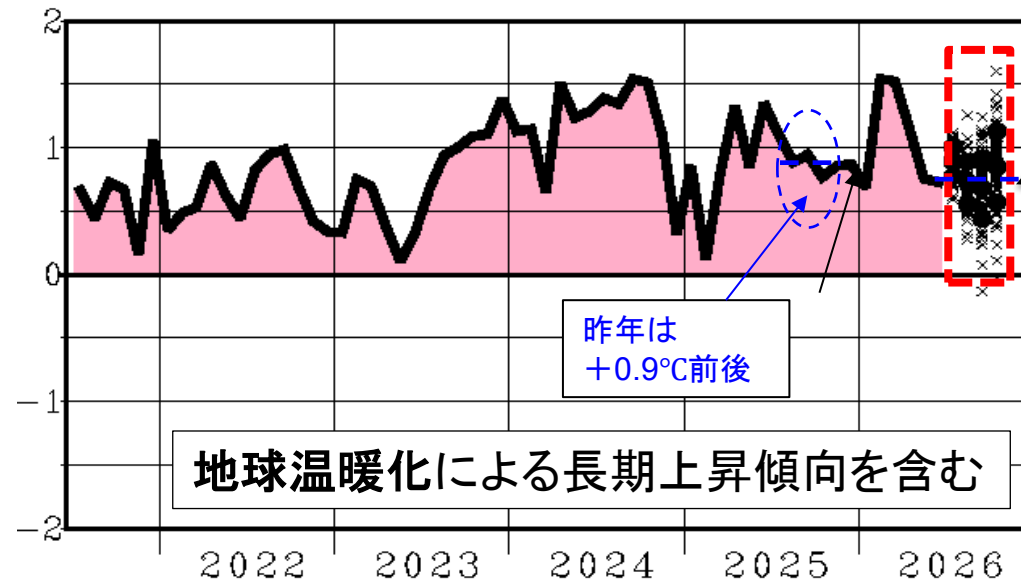


海面水温が高い海域が、太平洋赤道域西部
→ 太平洋赤道域中・東部へ

7月の基準値の差(月平均)は、 $+2.5^{\circ}\text{C}$
(7月としては1949年以降では1997年と並び最も大きい値)
今後は1997年(月平均で $+3.6$)に匹敵する値
になると予測。

大気全体の温度の予測

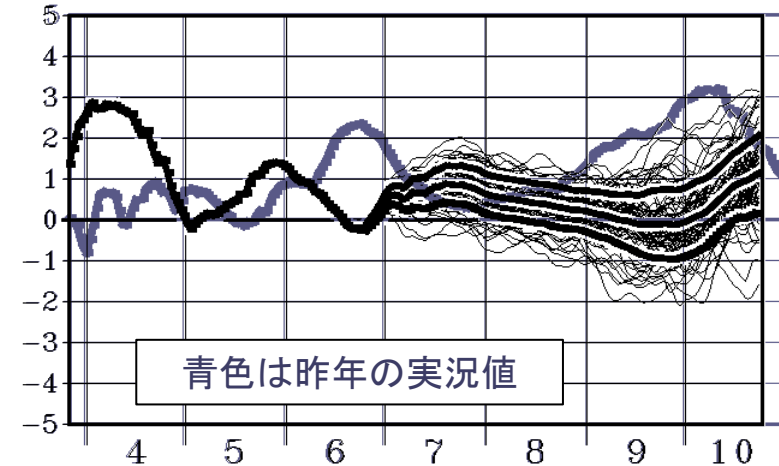
北半球中緯度の大気の温度は**高い**状態が続く。



+0.8℃程度
(北半球全体は+0.9℃程度)

エルニーニョ現象の発達により昇温傾向

西日本の上空約1,500m付近の
気温平年差



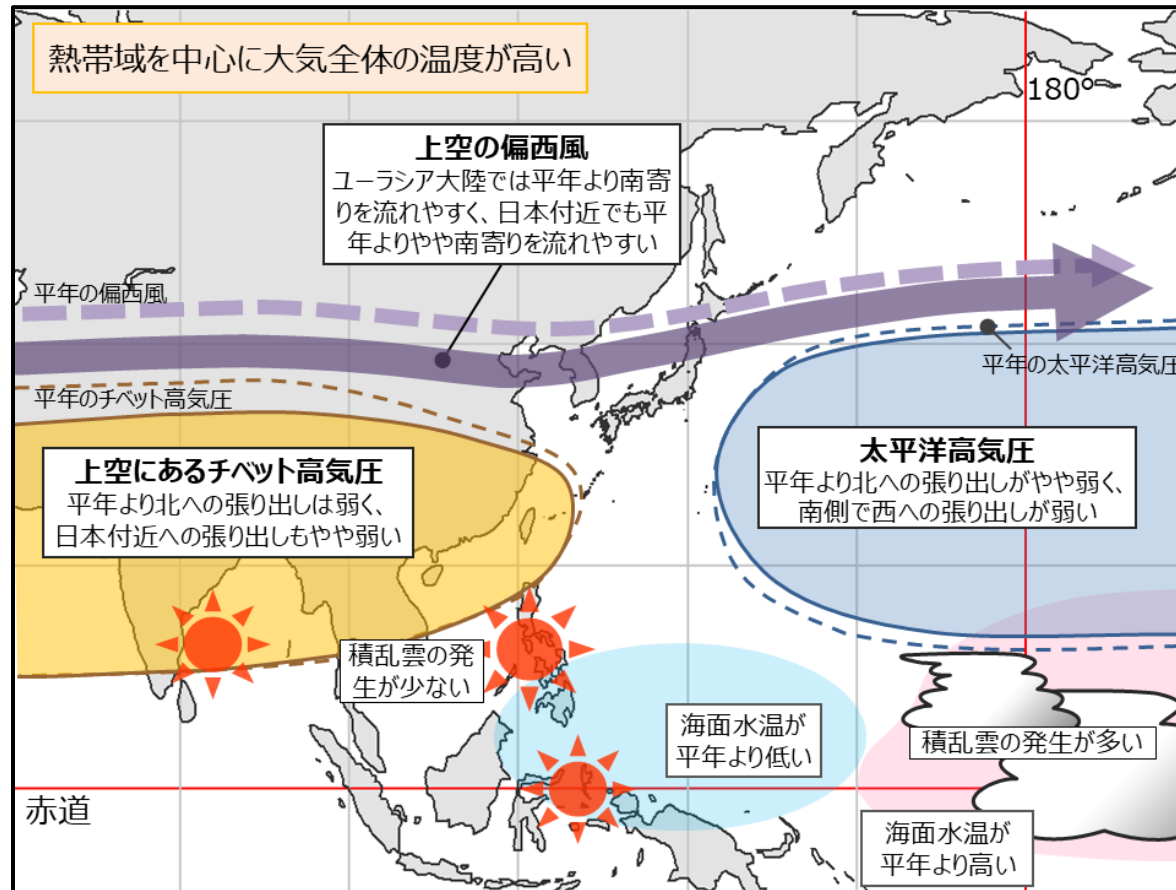
北半球中緯度の大気の温度の解析値と予測
対流圏(高さ約1,500~10,000m)の温度の平年差



夏のうちは高温に注意。
エルニーニョ現象の発達に伴い、
熱帯を中心に対流圏が昇温して
いく

- ✓ 去年は9月の気温がかなり高かったが今年
は平年程度。
- ✓ 10月後半から気温が上昇する傾向

予想される海洋と大気の特徴



【熱帯域の海面水温と対流活動】

- **エルニーニョ現象**が続く見込みで、海面水温は太平洋赤道域の東部～中部で高く、西部で低い。
- 積乱雲の発生は、太平洋熱帯域の東部～中部で多く、インドからインドネシア付近にかけて少ない

気温のポイント

3か月平均では、平年並か高い
大気の流れは、9月を中心に

- ・ 上空の偏西風はユーラシア大陸では平年より南寄りを流れやすく、日本付近でもやや南寄りを流れやすい。
- ・ チベット高気圧は北への張り出しは弱く、日本付近への張り出しもやや弱い。
- ・ 太平洋高気圧は北への張り出しがやや弱い。

見込み。これらの要因では、日本付近では通常は気温が低くなるが、

- ・ 地球温暖化やエルニーニョ現象等により熱帯域を中心に大気全体の温度が高く、**暖かい空気に覆われやすい**

見込み。なお、8月は、上空の偏西風はほぼ平年の位置を流れ、**高温**

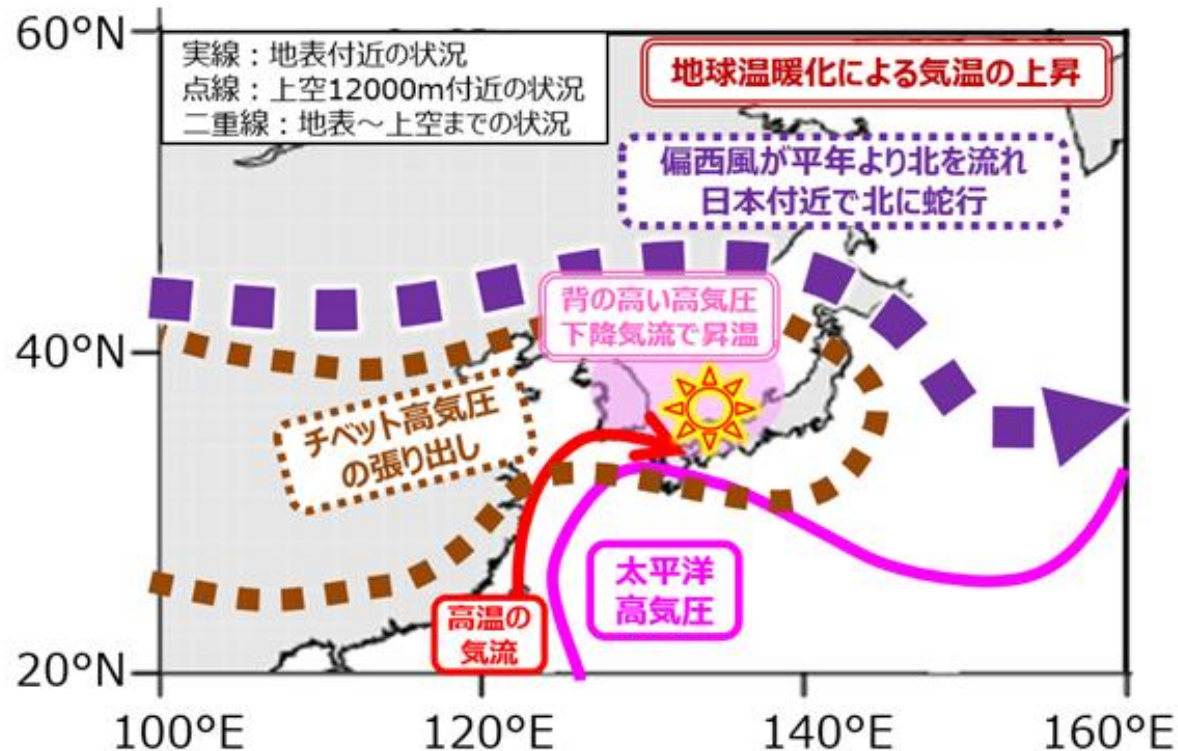
降水量のポイント

ほぼ平年並の予想

降水量はほぼ平年並を見込んでいるものの、台風・秋雨のシーズン。大雨には引き続き注意。

令和8年7月中旬～下旬の顕著な高温

西日本を中心に7月中旬～下旬にかけて顕著な高温となり、九州北部地方の旬平均気温の平年差は、7月中旬が $+2.9^{\circ}\text{C}$ 、7月下旬が $+2.4^{\circ}\text{C}$ 、と統計開始以降最も高い記録となった。
7月27日に大分県日田市では九州で初めての 40°C 以上の酷暑日を記録した。
九州北部地方では8月も高温が続き、8月3日は6地点で酷暑日を記録した。



7月27日

大分県日田市 40.0°C
※九州で初めての酷暑日

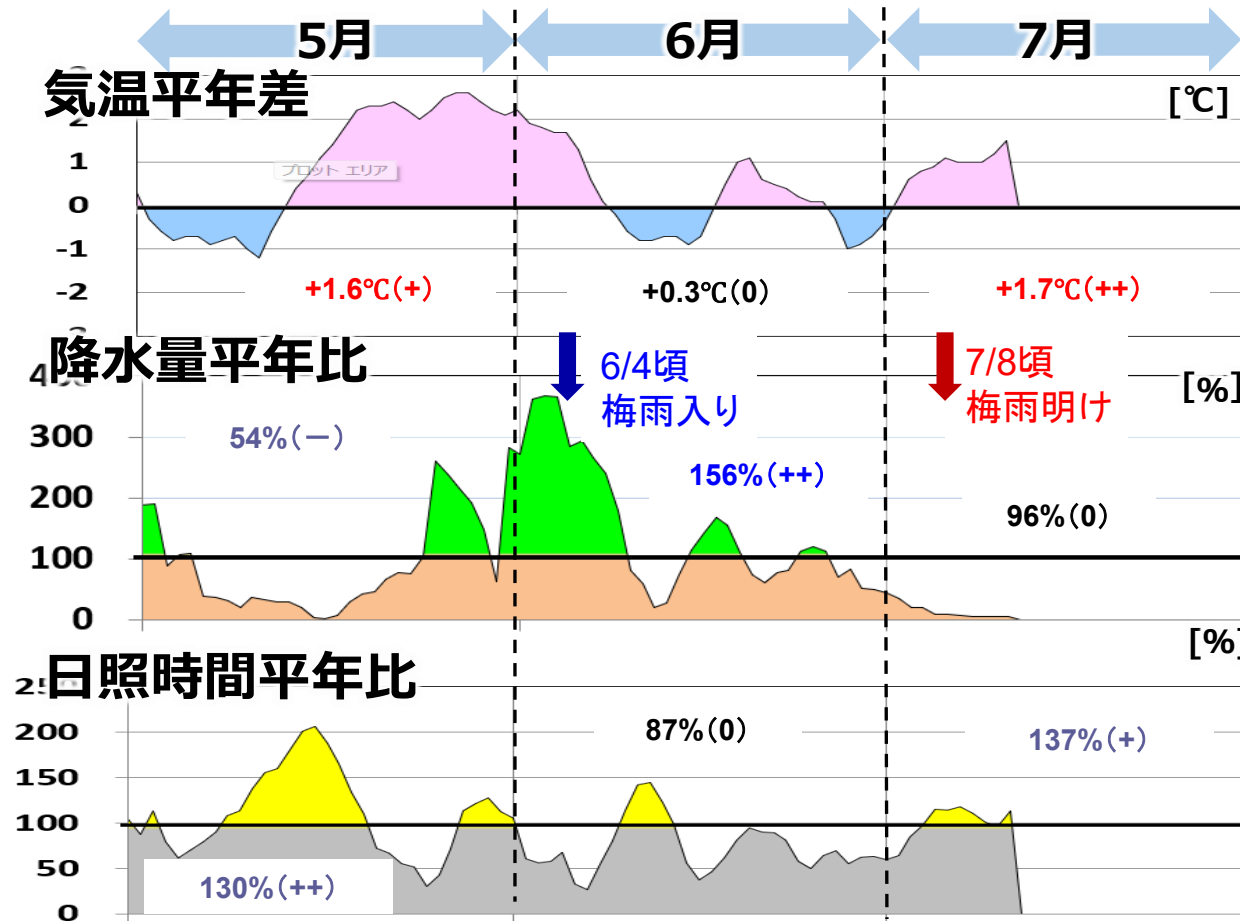
8月3日

福岡県久留米市 40.4°C
熊本県熊本市 40.3°C
福岡県太宰府市 40.2°C
熊本県菊池市 40.2°C
佐賀県佐賀市 40.2°C
佐賀県白石町 40.0°C

令和8年7月中旬～下旬の顕著な高温をもたらした大気の流れの模式図

参考資料

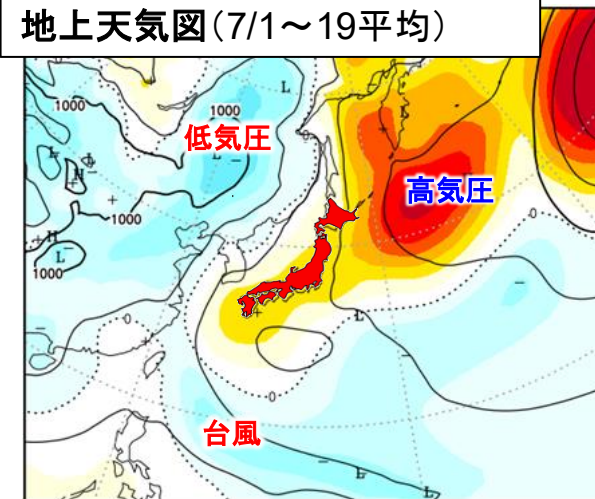
九州北部地方の天候経過(5~7月)



【7月(19日まで)の天候】

- 梅雨明け(7月8日頃)後は、晴れの日が多く、南からの暖かい空気が流れ込んだ影響も加わり猛暑日となった所もあり、気温はかなり高かった。
- 上旬の前半は線状降水帯を観測するなど大雨となったが、梅雨明けが早かったため降水量は平年並。
- 梅雨明けが早く、高気圧に覆われて晴れの日が続いたため、日照時間は多かった。

地上天気図(7/1~19平均)



地上気圧の平年からの偏差 hPa

数値は月平年差(比)・階級区分値
7月の値は19日までの暫定値
グラフは5日移動平均値でプロット

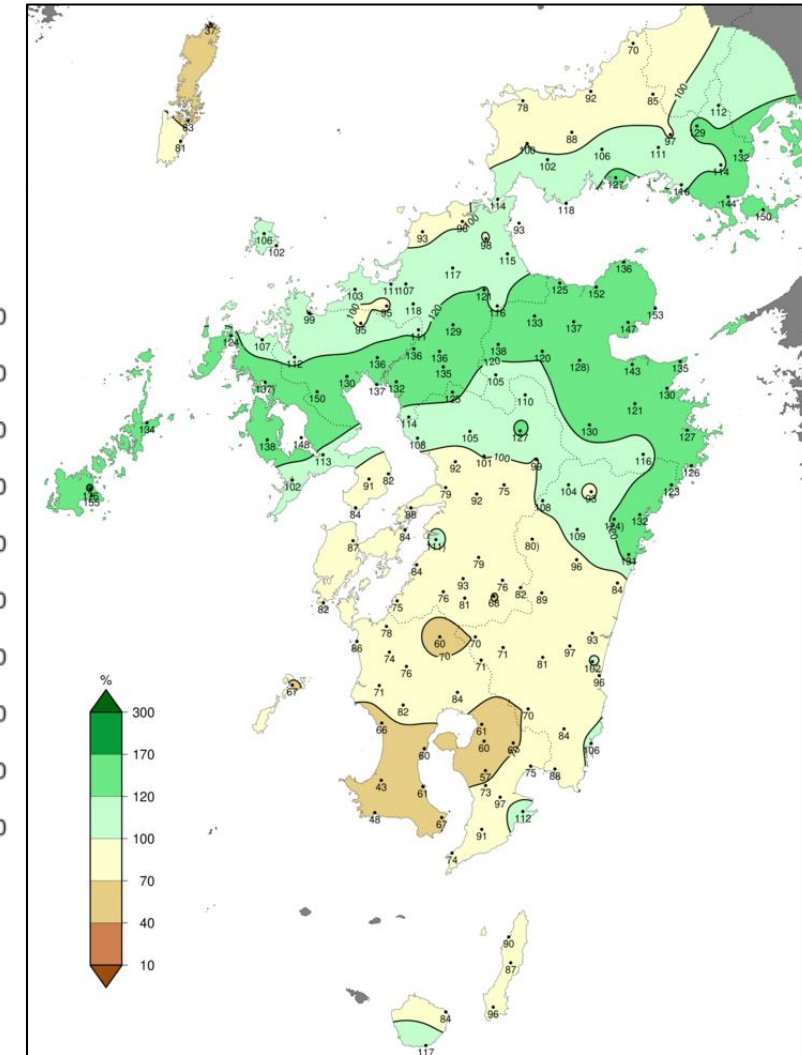
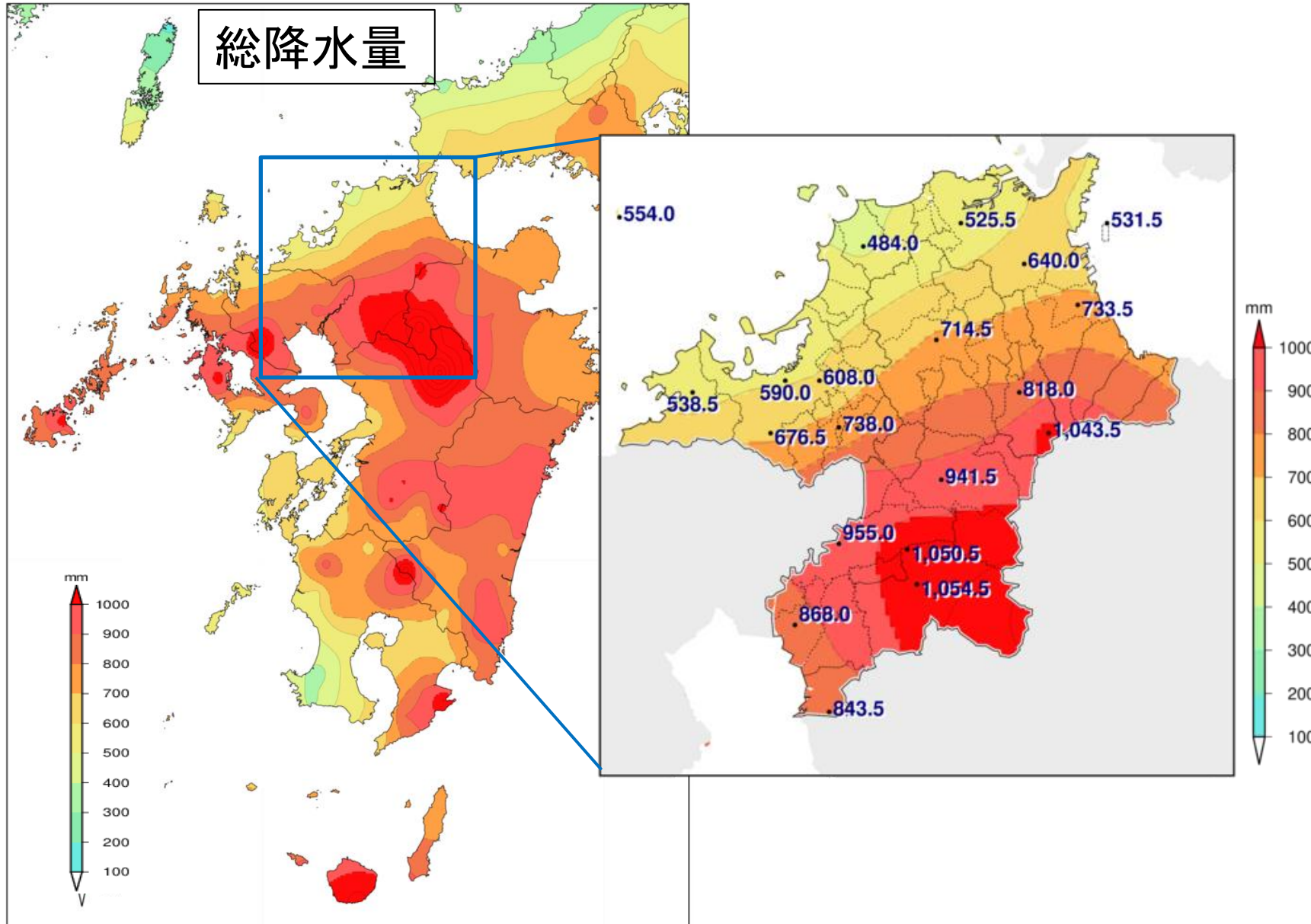
階級区分値

- | | |
|------|----------------|
| (++) | : かなり高い/かなり多い |
| (+) | : 高い/多い |
| (0) | : 平年並 |
| (-) | : 低い/少ない |
| (--) | : かなり低い/かなり少ない |

九州北部地方の梅雨時期(6~7月)の降水量分布

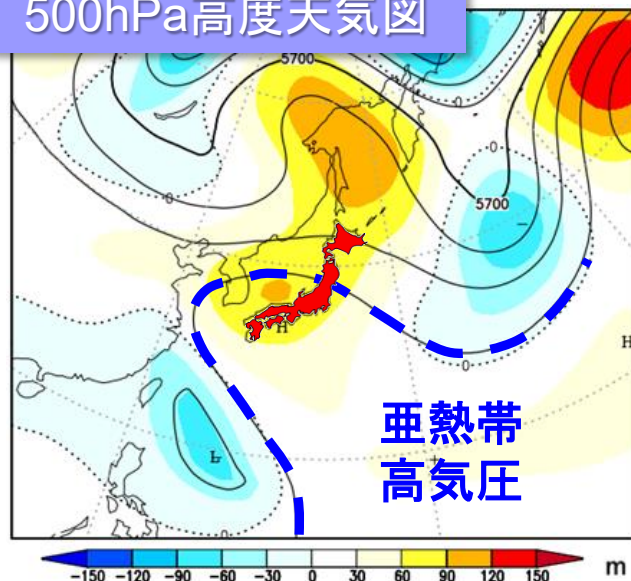
総降水量

平年比

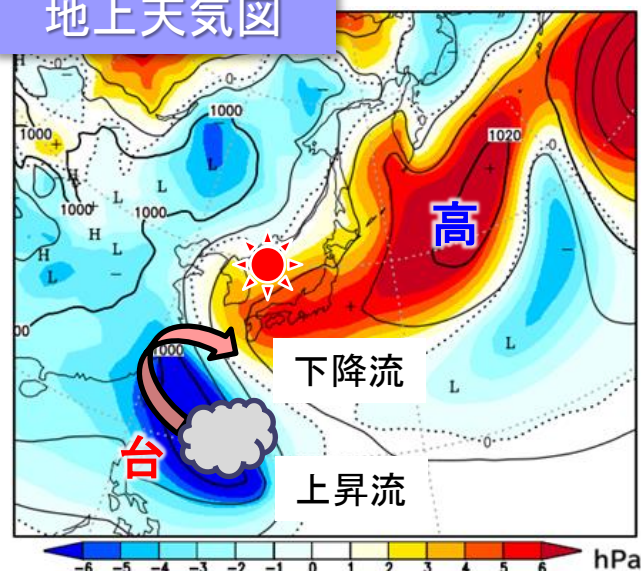


梅雨明け直後の猛暑日

500hPa高度天気図



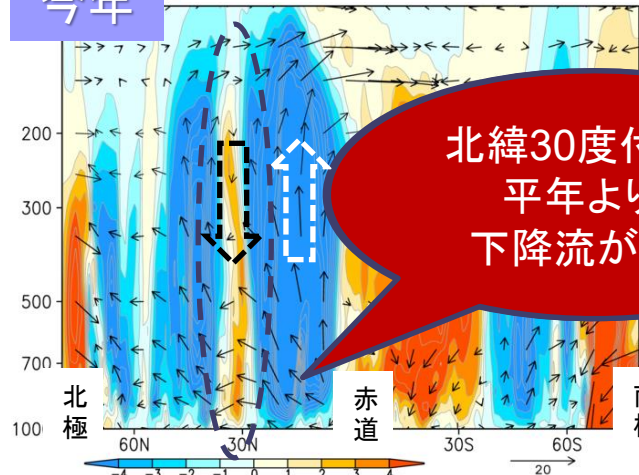
地上天気図



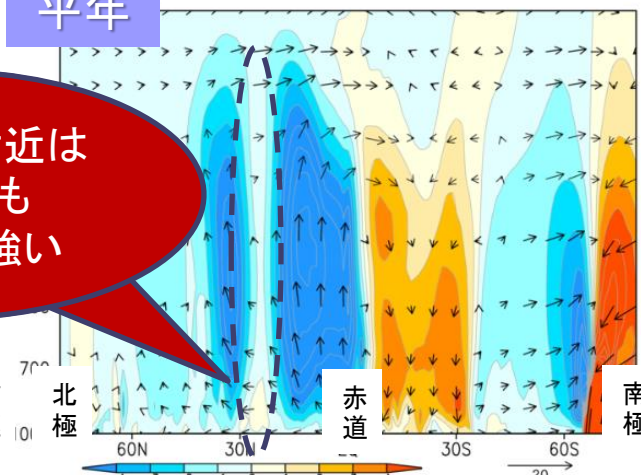
猛暑となった要因

- ✓ 本州付近の上空では、亜熱帯高気圧が西・東日本付近に張り出していました。
- ✓ 地上では、西・東日本付近は、高気圧圏内にあり、晴れて強い日射の影響で昇温しました。
- ✓ 台風第9号の影響で、西日本付近は、下降流が平年よりも強く、断熱圧縮で昇温しました。
- ✓ 11～12日は、高気圧の縁をまわって南東からの暖かく湿った空気が流れ込み、九州山地の北側(日本海側)を中心に、山越えの風(フェーン現象)で昇温しました。

今年 青:上昇流 赤:下降流



平年 青:上昇流 赤:下降流

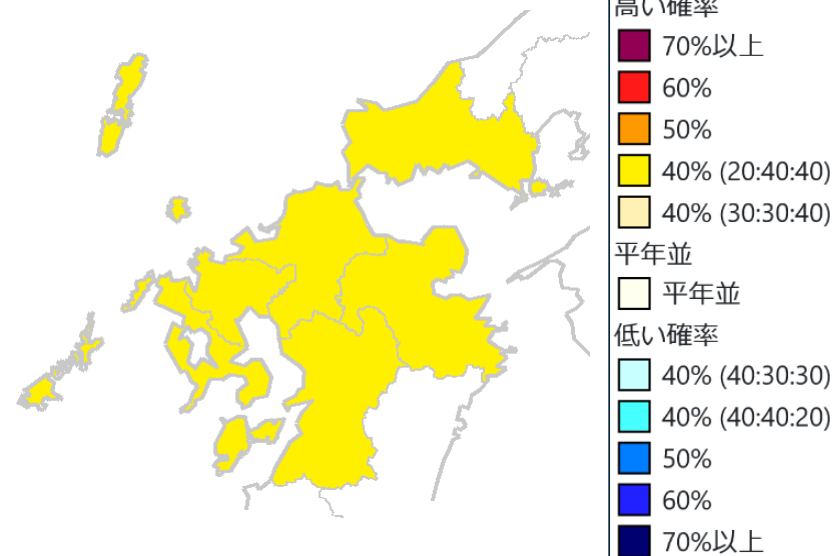
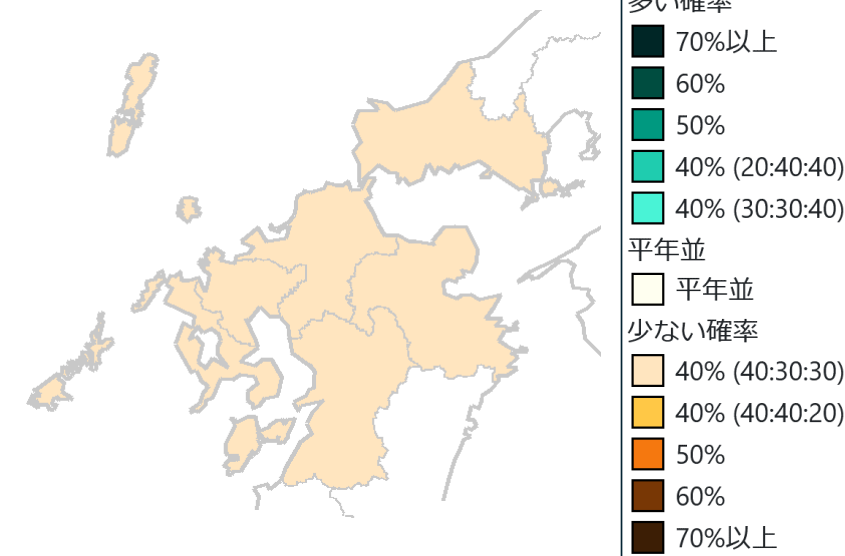


北緯30度付近は
平年よりも
下降流が強い

東経120～135度の子午面循環

天候の見通し(8~10月)

向こう3か月(8~10月)の平均気温・降水量

九州北部地方 (山口県を含む)	 平均気温(3か月) 8 ~ 10 月	 降水量(3か月) 8 ~ 10 月
	低 20 並 40 高 40 平年並 か 高い 見込み	少 40 並 30 多 30 ほぼ平年並 の見込み
 数値は予想される 出現確率です		

令和8年の梅雨入り・梅雨明け

■ 令和8年の梅雨入り

更新日：令和8年8月4日

地方	令和8年				平年の時期	昨年	
	時期	階級	平年差	昨年差		時期	階級
沖縄	5月4日頃	早い	6日早い	1日早い	5月10日頃	5月5日頃	早い
奄美	5月3日頃	早い	9日早い	2日早い	5月12日頃	5月5日頃	早い
九州南部	6月1日頃	平年並	2日遅い	16日遅い	5月30日頃	5月16日頃	かなり早い
九州北部	6月4日頃	平年並	同じ	19日遅い	6月4日頃	5月16日頃	かなり早い
四国	6月2日頃	早い	3日早い	16日遅い	6月5日頃	5月17日頃	かなり早い
中国	6月4日頃	平年並	2日早い	19日遅い	6月6日頃	5月16日頃	かなり早い
近畿	6月4日頃	平年並	2日早い	18日遅い	6月6日頃	5月17日頃	かなり早い
東海	6月7日頃	平年並	1日遅い	21日遅い	6月6日頃	5月17日頃	かなり早い
関東甲信	6月7日頃	平年並	同じ	16日遅い	6月7日頃	5月22日頃	かなり早い
北陸	6月20日頃	遅い	9日遅い	29日遅い	6月11日頃	5月22日頃	かなり早い
東北南部	6月20日頃	遅い	8日遅い	3日早い	6月12日頃	6月23日頃	かなり遅い
東北北部	6月21日頃	遅い	6日遅い	2日早い	6月15日頃	6月23日頃	遅い

■ 令和8年の梅雨明け

地方	令和8年				平年の時期	昨年	
	時期	階級	平年差	昨年差		時期	階級
沖縄	6月29日頃	遅い	8日遅い	22日遅い	6月21日頃	6月7日頃	かなり早い
奄美	7月1日頃	遅い	2日遅い	22日遅い	6月29日頃	6月9日頃	かなり早い
九州南部	7月13日頃	平年並	2日早い	16日遅い	7月15日頃	6月27日頃	かなり早い
九州北部	7月8日頃	早い	11日早い	11日遅い	7月19日頃	6月27日頃	かなり早い
四国	7月12日頃	早い	5日早い	15日遅い	7月17日頃	6月27日頃	かなり早い
中国	7月8日頃	かなり早い	11日早い	11日遅い	7月19日頃	6月27日頃	かなり早い
近畿	7月8日頃	かなり早い	11日早い	11日遅い	7月19日頃	6月27日頃	かなり早い
東海	7月20日頃	平年並	1日遅い	23日遅い	7月19日頃	6月27日頃	かなり早い
関東甲信	7月20日頃	平年並	1日遅い	22日遅い	7月19日頃	6月28日頃	かなり早い
北陸	8月4日頃	遅い	12日遅い	36日遅い	7月23日頃	6月29日頃	かなり早い
東北南部	8月4日頃	遅い	11日遅い	17日遅い	7月24日頃	7月18日頃	早い
東北北部	8月4日頃	遅い	7日遅い	17日遅い	7月28日頃	7月18日頃	早い

- ・梅雨は季節現象であり、梅雨入りと梅雨明けは、平均的に5日間程度の「移り変わり」の期間があります。「時期」は、移り変わりの期間のおおむね中日を示しています。
- ・「－」は、梅雨入りや梅雨明けの時期がはっきりしなかったため、特定できなかった場合を表します。
- ・「平年」は、1991～2020年における30年間の平均（梅雨入りや梅雨明けを特定できなかった年は除外）の時期です。
- ・梅雨入りと梅雨明けの時期の階級区分と最も早い/遅い記録（確定値）については、[こちら](#)をご覧ください。



エルニーニョ現象発生時の梅雨の時期の天候の特徴

統計的に有意な傾向は以下のとおりです。

降水量：西日本・日本海側で多い傾向。

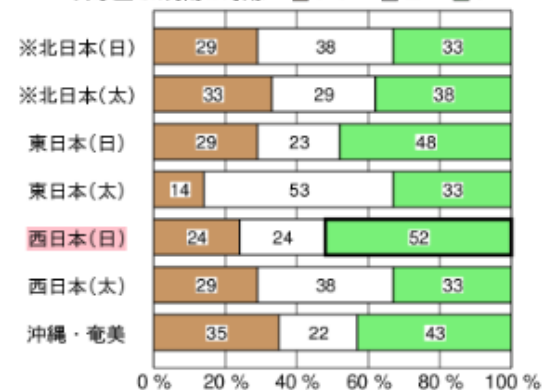
日照時間：なし。

梅雨入りの時期：北陸地方、四国地方で早い傾向。

梅雨明けの時期：近畿地方、四国地方、奄美地方、沖縄地方で遅い傾向。東北部、東海地方、中国地方で並か遅い傾向。

エルニーニョ現象が発生しているときの

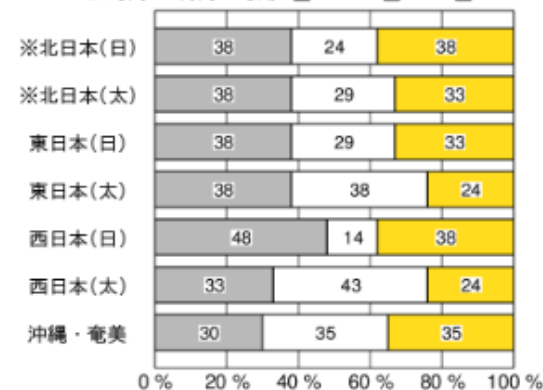
降水量<※梅雨の時期> ■ 少ない □ 並 ■ 多い



※梅雨の時期は沖縄・奄美では5月と6月、その他の地域では6月と7月の2か月間
※北日本に北海道は含まない

エルニーニョ現象が発生しているときの

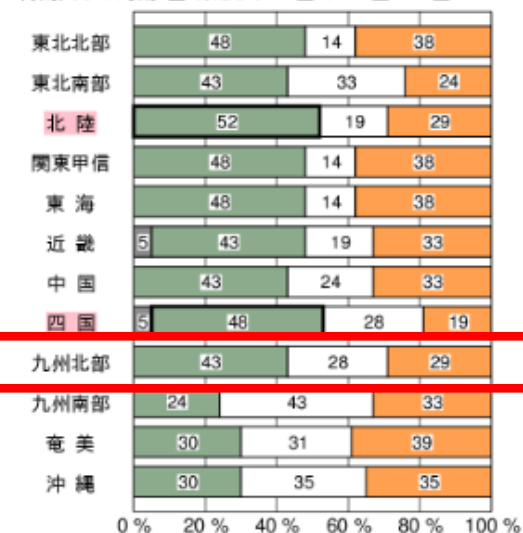
日照時間<※梅雨の時期> ■ 少ない □ 並 ■ 多い



※梅雨の時期は沖縄・奄美では5月と6月、その他の地域では6月と7月の2か月間
※北日本に北海道は含まない

エルニーニョ現象が発生しているときの

梅雨入りの時期 ■ 特定しない ■ 早い □ 並 ■ 遅い



エルニーニョ現象が発生しているときの

梅雨明けの時期 ■ 特定しない ■ 早い □ 並 ■ 遅い

